

H26 年度 第 5 回一関市総合計画審議会資料

総合計画審議会の意見等への回答

審議会委員からの意見等

「総合計画審議会のプロセスについて」

回を追うごとにルールに乗って最終ゴールにたどり着くのではと心配している。

2011～2015 の一関市総合計画後期基本計画に対しての実績の検証を行ったのか。特に財政と人口に関してはどうだったか。

マクロ的に近代の日本を捉えた時、明治維新から約 150 年、第二次大戦から 70 年、現在の日本は未曾有の危機的状況にある。

特に、現状認識からこれからを考えるべきではないか。

これから行政だけに負担をかけるのではなく、市民も負の遺産を負うべきでないか。

意見・質問に対する回答

現総合計画の後期基本計画の実績については、総合計画実施計画事業（先導的事業）と「主な指標」について毎年度、実施状況と課題等について取りまとめ、審議会においても報告しております。

また、現総合計画の施策の分析を行うため、今後、各担当課に照会を行い、次期総合計画基本計画の策定の参考とすることとしております。

さらに、財政状況については、人口減少により、年々税収が減少する中においても、総合計画基本計画を推進するため、財政指標の分析を行いながら事業を実施しております。

次期総合計画については、人口減少、少子高齢化に対応した行政サービスのあり方を検討し、策定して参ります。

審議会委員からの意見等

「市の人口、経済、文化のカギを握るのは産業にあるのでは」

アンケートにも見られるように、学生から老人まで産業基盤の確立が前提条件にあると考える。

一関市は人口減少率の大きい都市二位となっております。一関は危機的状況にあり、人口微増、微減への対策が急務と考え、学識経験者を入れたプロジェクトチームの創設等を図るべき。

従来の産業の強化のほかに、新たな視点で、①平泉世界遺産との連携②東日本復興支援（内陸と被災地国道 284 号の強化策）③自動車関連産業の推進（東北トヨタ、金ヶ崎町、

意見・質問に対する回答

アンケートについては、平成 17 年、平成 23 年にも実施したところですが、今回の回答結果においても、過去 2 回の結果と同様の傾向が見られたところであり、このうち、「どのような分野に力を入れていくべきか」という設問に対しては、働く場の確保を挙げる答えが最も多く、10 年前と同様となったところです。

市では、雇用対策を政策の重点課題に掲げ、雇用の場の確保をはじめとする対策に取り組んできたところですが、今後においても、企業、工場の誘致だけではなく、地域の特性や資源を生かした事業の創出、あるいは、事業の誘致という視点が不可欠であると認識しております。

そのために、地域企業同士の交流を促して、新産業、新技術の創出の支援、農商工連携の支援、女性や若者による起業化の支援などとともに、国際プロジェクト誘致（I L C）に関係する企業の動向にも注意を払っていく必要があると考えております。

人口減少への対応については、庁内で定期的に開催している行政課題検討会及び政策調整会議で協議を行っているほか、社会構造の変化を見据えた行政サービスのあり方検討チームを設置し、外部コンサルタントの指導も受けながら、その対策と対応について協議を行っております。

また、①平泉世界遺産との連携については、平成 26 年 3 月に策定した定住自立圏共生ビジョンにより平泉町と連携し、具体的な取り組みを実施することとしています。

②東日本大震災復興支援（内陸と被災地国道 284 号の強化策）については、長期間に及ぶ被災地復興や隣接市町村との県際連携を進めていくため、国道 284 号の室根バイパスの早期完成を国及び県に要望しております。

③自動車関連産業の推進については、自動車組み立て工場の拠点形成の動きに併せて、部品製造関連工場の誘致を中心として、企業誘致を進め、一関第二工業団地をはじめ、新規企業の進出が実現しておりますが、新規立地の件数に比べ、雇用者がなかなか伸びないという課題があります。この背景には工場内の製造ラインの自動化等がありますが、全体として、大きな雇用を前提として新規立地を期待することは、難しい現状であり、単に誘致の件数だけではなく、地元雇用の数をどう増やしていくかという点を戦略の柱としております。

④ I L C の建設、促進については、北上高地を I L C 建設地とし、国を挙げて誘致を推進するよう国へ要望するとともに、庁内においても連絡会議等を開催し、I L C を基軸としたまちづくりについて検討を進めております。

審議会委員からの意見等

「一関市景観条例について」

一ノ関駅前のカラオケ店の赤色の外装は、世界遺産平泉の玄関口としてふさわしいとは言えない。経営者に一考を促すことはできないか。(市民や駅利用者などと意見交換を行っていくことはできないか。)

意見・質問に対する回答【担当課：都市計画課】

一関市景観計画では、景観まちづくりの推進を図り、将来像を達成するため「みんなで守り、創り 未来へ引き継ぐ 魅力ある景観まちづくり」を掲げ、景観づくりに対する住民、団体及び行政の意識を高め、互いに役割分担をしながら、より多くの住民が参加できる協働の取り組みを広げていくことが重要としているところです。

一ノ関駅前のカラオケ店の壁面広告板につきましては、景観条例に基づく事前協議の際の指導事項として

- ・工作物の外装の色彩は、周辺の景観と調和するよう努めること。
- ・工作物の外装に使用する素材は、出来る限り経年変化による質の低下の少ない耐久性のあるものを用い、周辺の景観と調和するよう努めること。

と、指導したところですが、設置者は意匠の変更は出来ないとの理由から、壁面の色を白から薄いベージュに変更することにより、周辺の景観との調和を図り施工したものであります。